

平成24年度 宇都宮市立五代小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

豊かな心と健康な体を持ち、知性と創造性に富む実践力のある子どもの育成

自分で考え 進んで学ぶ子（自主・創造） 明るく 思いやりのある子（自立・共生）

健康で ねばり強い子（健康・意志） 礼儀正しく 責任を果たす子（礼儀・責任）

＜合言葉：かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい 五代の子＞

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

21世紀にたくましく生きる人間を育成するために、教師も保護者も同じ姿勢、同じ足並みで子どもたちを成長させながら自らも成長していく。

◇ 子どもが夢や目標に向かって楽しく意欲的に学ぶ学校

◇ 教職員がそれぞれの専門性を発揮し、実践する学校

◇ 家庭や地域とのつながりを大切にし、保護者や地域住民から信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※地域学校園内で共通する方針は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

① あいさつの推進（心から、自ら進んで、元気に、相手の目を見てあいさつができる子をめざす）

②○授業の充実（楽しく、分かる授業をめざす）

③ 読書活動の充実（量的な向上のみならず、質的な向上をめざす）

④ 道徳教育の充実（豊かな心と道徳的実践力の育成をめざす）

⑤ 特別支援教育の推進（プロジェクトチームによる協力体制の強化をめざす）

⑥ 「食の豊かさ」を追求する食育指導の充実（「生きる基本としての食」の意識づけをめざす）

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※地域学校園内で共通する目標は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

☆：重点目標

【学校運営】

人間尊重の教育を重視し、児童の実態や地域社会の実態に即して教育課程の編成や特色ある学校づくりを進める。心の教育を特色ある学校づくりの中心として位置づけ、道徳教育、交流教育の推進や潤いのある環境づくりと密接に関連させながら推進していく。また、保護者や地域の教育力を活用して充実を図りたい。

☆○児童の学力向上のための楽しくわかる授業を実践する

☆○校内、地域学校園内におけるあいさつ習慣の定着化を図る。

【児童生徒指導】

児童一人一人を共感的に理解することを基盤に、個々のよさを認めながら自己存在感を持たせるような積極的な児童指導を全校体制で進めていく。「五代の子は 五代の全職員で育てよう」を合言葉に「どんな小さなサインも見逃さないこと」「どんな問題も全校体制であたること」を常に確認し合いながら進める。

☆ お互いを認め合い、豊かな心をもつ児童を育成する。

【健康・体力】

教科体育やロング昼休みを活用して体力づくりに取り組み、健康安全教育・性教育・給食指導・食育との関連を図りながら健康の保持増進を図る。

☆ 自分の体に関心を持ち、進んで運動に取り組み、健康の保持増進を心がける児童を育成する。

【学習指導】

指導方法等の工夫により、基礎的・基本的内容の確実な定着を図るとともに、問題解決的な学習や、体験的な学習を適切に取り入れて、学ぼうとする意欲や態度を育て、児童にとって「分かる授業」を実現する。また、授業において、受容的で共感的な話す・聞く能力や態度の育成を通して人間関係力の育成も図る。

☆ 基本的な学習態度や学習技能の習得を基にした基礎・基本の確実な定着を図る。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す）

方向性：A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	具体的な状況及び改善策
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「自分は、今の学校が好きである」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業や特別活動、なかよし班活動などにおいて、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかわり」を大切に適切な支援を行う。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 91.0%↓(94.7%)、保護者 91.5%↑(90.8%)、地域住民 94.1%↓(94.4%)と多少の上がり下がりはあるが、いずれも 90%以上と達成状況は良好である。 【次年度の方針】 ・児童がさらに充実した学校生活を送れるよう、「新学習指導要領」「宇都宮スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、諸計画の修正を加え実践を継続していく。 ・「他者とのかわり」を大切に支援を、引き続き行っていく。 ・児童会を中心になかよし班活動の充実を目指す。 ・水曜日のロング昼休みに「なかよし班で遊ぶ日」を月に1回程度の割合で取り入れ、班の連携を深める。（ロング昼休み全ての時間ではなく、13時30分から音楽を流すなどして20分程度の活動として行ってみる。） ・「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等に関連する行事等を実施するときなど、機会あるごとに主務者がその趣旨や目的等を説明していく。 ・それぞれの部会を中心に話し合いを進め、小中一貫教育の目的が達成されるように実践していく。 ・交流連携部会を中心に相互乗り入れ授業等、連絡を密に取り合い進めていく。
		② 特設時間の他に児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」「きょうだい学年で遊ぶ日」を設定し実施する。	A	
		③ 諸計画は、「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、修正を加え、継続実践する。	B	
		④ 小中一貫教育の完全実施に伴い、相互乗り入れ授業等児童生徒の健全育成のための方策を考え、実践する。	B	
	A2 教職員は、組織の一員として誠実に熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① ロング昼休みの時間等を有効に活用し、児童一人一人を見取り、声をかけ、よく話を聞き、よいところは認め、指導すべきことはしっかりと指導する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 97.1%↓(97.9%)、保護者 86.1%↑(85.7%)、地域住民 93.7%↑(87.5%)であった。 【次年度の方針】 ・次年度も昼休み等の時間を有効に活用し、児童一人一人を見取り、声掛けなどを継続的に行っていく。 ・校務分掌業務に対し、スクラップ&ビルドが実行できていない面がある。必
		② 保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションを図り、誠意を尽くした対応に努める。来校者・電話・連絡帳等には、速やかに親切に対応する。	B	

上	③ 学校経営への参画意識をもち、担当の校務分掌業務に対して、主体的に取り組み、効率的な運営・改善を図る。(新たな発想プラスワン企画, 自分の得意分野を伸ばす, 互いに支え合う組織づくり)	B	要なものは残し、取り組みを精選しながら効率的な運営を行っていく。 ・欠席児童への電話連絡や家庭訪問の実施, 来校者への積極的な声掛け等は, 次年度も積極的に行っていく。 ・保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションを図り, 誠実な対応に努めるよう全職員で取り組んでいく。 ・各自が学校経営への参画意識をもち, それぞれの校務分掌において学校長の示す「学校経営の方針」の具現化に努める。
	④ 本年度同様に, 欠席児童への電話連絡及び家庭訪問実施, 授業参観時の来校者への積極的な声かけを行う。	B	
	⑤ 保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションをとるようにし, また誠実な対応に努めるよう全職員で取り組んでいく。	B	
	⑥ 組織として機能できるようこれからも校務分掌業務に対して主体的に取り組んでいく。	B	
A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【全】 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活をしている」⇒児童の肯定的回答80%以上	① 「生活と学習・10の約束」を教室に掲示し、教師自らが行動に表し、常時児童の意識づけを図り、6月・11月・2月の3回自己評価をする。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 78.1%↓(85.8%)と数値指標の80%を下回った。保護者 86.1%↑(83.0%), 地域住民 93.7%↑(87.5%)であった。 【次年度の方針】 ・「生活と学習・10の約束」は、児童の実態に応じてその都度必要な指導項目について確認をし、定着を図っていく。 ・「生活と学習・10の約束」は学期末の9月と2月の年2回自己評価する。 ・週目標の期間を2週間にし、児童への意識付けを図ったのはよかった。次年度も2週間ごとに週目標を設定し、意識付けと定着を図っていく。 ・週目標の定着を図るため、朝や給食時の放送を活用して児童に呼びかけ、意識付けを図る。 ・各学年の児童指導（特に事件事故等）の対応についての共通理解が図れていないので、職員会議後の情報交換の際に積極的に発信する。
	② 児童の実態に即して、月目標を具現化した週の生活目標の設定と、全職員の共通理解に基づいた基本的生活習慣に関する指導を徹底する。また、生活の振り返りを行い、目標の達成を実感できるような指導の工夫を図る。	A	
	③ 「五代の子の一日」の提示により児童の生活を振り返らせる機会を与えとともに、学級の児童一人一人の個別指導の充実を図る。	B	
	④ 毎職員会議後の、特別支援を要する児童の経過報告や児童指導委員会においての事例研究などを研修を実施し、児童理解に努める。	B	
	⑤ 若松原地区児童生徒指導強化連絡会により、学校間や地域との連携を図る。	B	
	⑥ 学級懇談会の充実や育成会の協力により、家庭・地域との連携を強化する。	B	

A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学習のねらいを明確化し、「分かる授業」の具体的方策を工夫し実践することで授業力を高め、授業や学習をより分かる楽しいものにしていくことにより、学力向上を図る。 ② 分かる授業を展開するために、「一人一授業」(研究授業)を実践し、自己研修と授業力向上に努める。また、学年会や研修等で、「分かる授業」として成果を上げた授業や教材を他教員に紹介する。 ③ 『宇都宮市学校教育スタンダード』に基づく授業力向上についての「分かる授業」チェックリスト(自校化したもの)を活用し、授業評価を行い、授業力向上を図る。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答 94.7%↓(95.4%)で0.7ポイント減少しているものの、昨年同様高い値を示し、数値指標 80%以上を上回っている。保護者 78.4%↑(75.3%)は、3.1ポイント上昇となった。授業の見どころを事前に通知したり、授業の流れをパンフレット形式で配付したりという取り組みが成果を上げた。地域住民 91.6%↓(96.5%)と減少しているが、高い値を示している。 【次年度の方針】 ・学習のねらいを明確にし、授業のねらいを達成するための効果的な活用を意識し、視聴覚教材や実物見本等、児童が興味をもって学習に臨めるような教材を使用して分かりやすく楽しい授業を行う。 ・学年会等で、各教科の教材研究を重点化する。「分かる授業」として成果を上げた授業や教材を他教員に紹介する。 ・教職員間で互いの授業を参観することにより、授業を見る目を養い、よいものを積極的に取り入れていく。 ・「わかる授業」チェックリスト(自校化したもの)の項目を常に意識しながら授業を行い、授業後に自己評価を行い、授業力向上を図る。
A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「自分は、学校での生活や様々な活動が充実している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 昨年度の反省を生かした企画・立案による諸計画を実施する。学校行事や授業等では、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定したり、適切な支援を行ったりして、児童の成就感存在感を得られような行事や日課になるよう継続実施を図る。 ② 実施後は、次年度の教育課程に反映させるため、教職員、児童、保護者による行事アンケート、授業アンケート及び「自己点検カード」を記入し、改善策を検討する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答 91.2%↓(93.3%)、保護者 93.6%↑(90.4%)、地域住民 100.0%→(100.0%)と多少の上がり下がりはあるが、達成状況は良好である。 ・教職員の肯定的回答は低い。(88.2%) 【次年度の方針】 ・反省が次年度に生かされるように各主務者は、今年度中に改善策を検討し、次年度の主務者に引き継いでいく。 ・特に高学年は行事(ふれあい文化教室、租税教室、薬物乱用防止教育等)を計

		③ 前年度の反省を考慮し、高学年児童がリーダーシップをとって活動できるよう「なかよしチャレンジ」を児童会主催にしたことや縦割り清掃を実施したことは有益であったため、次年度も継続して実施していく。	B	画的に行ったり精選したり、児童が主体的に活動できるように考え、実践していく。 ・「なかよしチャレンジ」は児童会主催にしたことで高学年児童がリーダーシップをとって活動できるようになったので、次年度も引き続き実施する。 ・就学時健康診断は5年児童が係を行うこと好結果を生みだすことができるため、次年度も引き続き、5年生が係を行う。
		④ 就学時健康診断は5年児童が係を行うことで、次年度、新1年生に対し6年生としてかわることができるとため、本年度も同様の方法で実施し結果を検証する。	B	
		⑤ 教職員による各種行事の反省は、速やかに行い、問題点を本年度中に検討し、改善策検討し、改善策を考え、文書等に残し次年度に生かしていく。	B	
学校運営の状況	A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、「地域の学校づくり」が進められている。 【全】 【数値指標】 保護者アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 授業参観や「オープンスクール」には、地域の方々や近隣の小・中学校及び幼稚園・保育所などにも呼びかけ授業等を公開するとともに、授業の概要や解説など用意して、より理解を得られやすくする。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答 92.9% ↓ (94.2%), 地域住民 94.1% ↓ (94.4%) とやや下がってはいるが、達成状況は良好といえる。 【次年度の方針】 ・肯定的回答の達成率がやや下がっているため、学校の公開や情報の積極的な発信・提供を行っていく。 ・「授業の見どころ」や「道徳リフレット」等はより理解を得るために必要なので、引き続き行う。 ・学校評価書や児童の学習・体力・生活の状況、危機管理などの情報は引き続きその都度知らせていく。 ・各種便りは係を中心にこれからも質・量を高める努力をする。 ・児童の体力の状況はその都度知らせ、保護者に把握してもらうとともに、体育の授業等で補強運動を取り入れる。 ・学習や生活の状況は、「個人の記録」とともに、教育情報システムの「日々のようす」も活用する。 ・危機管理情報は、電話連絡網と併用して情報を提供していく。(将来的にはメール配信のみで行えるよう加入率100%になるように働きかける。) ・地域学校園で「食育だより」や「地域学校園暦」などを発行できるかどうか検討していく。
		② 学校評価書や児童の学習・体力・生活の状況、危機管理などの情報は、その都度分かりやすく迅速に知らせるようにする。	B	
		③ 校長室だより、学年だより及び各種だよりの発行やホームページの充実を図り、学校教育活動を積極的に発信する。その際、情報のあり方を工夫改善しながら、情報提供の質・量を高める。	B	
		④ 児童の体力の状況は、「五代の子」(体育関係通信表)を1年間に1回ではなく、体力テストや各種検定後、保護者に渡し、把握してもらう。	B	
		⑤ 学習や生活の状況は、通知票以外に、個人懇談や家庭訪問、学級懇談等で知らせられるよう、詳しく記録を残す。	B	
		⑥ 危機管理情報は、宇都宮市が行う学校情報提供システムに変更し、メール配信による情報を速やかに伝えられるようにする。	B	

		⑦ 小中一貫教育として、本年度「図書だより」を発行したが、新たな便り、ホームページ等で情報を発信していく。	A	
A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。[全] 【数値指標】 児童アンケート「自分は、地域や企業の方々と一緒に活動したり勉強したりすることで、学習が充実し楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「食育」や「健康な生活」「親学」などに関係する各種行事や活動の際に、その趣旨を分かりやすく説明するとともに、教育講演会の実施も積極的に進める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 90.1%↓(92.5%)、保護者 88.6%↑(81.9%)、地域住民 91.1%↑(85.7%)と、達成状況は良好である。 ・保護者の肯定的回答は、88.6%で他と比べると低いが、昨年より 6.7%ポイントが上がっている。これは、スーパーへの給食の献立表の掲示や、「学校保健・給食合同委員会」での保護者への参加を呼びかけなどの取り組みが成果を上げた。教職員の評価は、100%と高い値を示している。 【次年度の方針】 ・今年度の取り組みを定着させるとともに、親子給食会以外で保護者対象の試食会を実施する。 ・5・6年生は、「幼稚園一日先生」は行わず、中学校との連携や校内でのリーダーシップも中心となって行っていく。 ・「五代夏まつり」には引き続き、積極的に協力していく。 ・安全・安心ボランティアと連携を密にし、児童の安全確保に努めていく。 ・保護者や地域住民にも協力を呼び掛ける。	
	② 「親子給食会」は、今年度の取り組みを充実させ継続実施する。「学校保健・給食合同委員会」では、給食試食会の充実を目指し、一般の保護者の方にも積極的に参加を呼びかけ拡充していく。	B		
	③ 昨年度の取組を継続実施していくとともに、児童が様々な人とかわりながら学ぶ場として、地域の幼稚園・保育所との交流活動を推進し、「五代夏まつり」にも積極的に協力する。	C		
	④ 学校・家庭・地域間の連絡をさらに密にし、魅力ある学校づくり地域協議会と連携しながら、児童の登下校の安全確保に努める。	B		
A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。[全] 【数値指標】 児童アンケート「学校は、清掃がしっかり行われ、学	① 校舎内外の整備・保全及び教室や教材教具の整備・補充など努め、学習意欲を高める掲示や季節感ある環境構成を工夫する。(年度初めの環境整備計画に沿って実施できるようにしていく。)	B	【達成状況】 ・今年度は総合訪問もあったので、教室内外の整備・保全が整い、掲示物や教材教具の整備補充が充実したように感じる。 ・児童の肯定的回答率は、84.0%↓(89.7%)で5.7ポイント減少しているが、数値指標 80%以上を上回ってい	

教育活動の状況		習しやすく気持ちのよい環境である」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	② なかよし班を活用した、縦割り班清掃を実施し、日常の清掃指導の徹底を図るとともに、児童の活動を細やかに見取り、適切な指導と賞賛を重ねることにより、清掃の仕方を身に付け、自分たちの学校の美化に努めようとする意識を高める。	B	る。縦割り班での清掃になったことで、自分自身の清掃への取組の評価や、班のメンバーの取組の様子への評価が厳しくなったものと考え。教職員 70.5%↑(52.9%) 保護者 78.4%↑(75.3%) 地域住民 83.8%↑(80.0%) とともに評価が高くなっている。このことから、学校内の環境が学習にふさわしいものになってきていることがうかがえる。 【次年度の方針】 ・教材教具をスムーズに取り出せるよう整備・表示をする。 ・本年度に引き続き、年度初めの計画に沿って実施できるようにしていく。 ・なかよし班を活用した、縦割り班清掃をする。
	B1	学校全体で、家庭での学習習慣の形成を図る。 【数値指標】 児童アンケート「自分は、家庭で学習する習慣ができている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 昨年に引き続き、低中高別保護者向けに作成した「家庭学習の手引き」を配付し、懇談会等で家庭の理解と協力を呼びかける。その際、県教育委員会のリーフレットや市教育委員会のスタンダード等を参考にし、説得力ある説明に心がける。 ② 実態にあった宿題を適切に出すとともに、自主学習の仕方や内容を示し、自主学習への取組も工夫する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 86.2%↓(87.2%) と昨年度より下回ったものの、数値指標 80%を上回っている。保護者 73.3%↑(71.9%)、地域住民 90.4%↑(70.8%) となっている。 ・教職員 100%↑(94.1%) と高い値を示しているのに対して保護者の数値が低く、学校と家庭での取組や意識に大きく違いがあることがうかがえる。家庭での学習習慣形成には、さらに保護者との連携が必要である。 【次年度の方針】 ・家庭学習の内容や進め方について、学校全体で共通理解を図るとともに、学年内でより細かに検討し歩調を合わせて実施する。 ・実態にあった宿題を適切に出す。 ・児童には、家庭学習の重要性をよく理解できるように話したり、個に応じた宿題を工夫したりして、学習形成の支援を引き続き行う。 ・「自主学習の仕方」のプリントなどを活用し、学年の発達段階に応じた指導を徹底することで、自主学習への取組を工夫する。 ・保護者への協力や家庭での学習環境づくりを機会あるごとに呼びかけ、学校と家庭が連携して、根気強く児童の指導に当たるようにする。
	生	A9 児童は、進んであいさつをしている 【数値指標】 児童アンケート「児童は時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答	① 常時指導及び定期的に児童会を中心としたあいさつ運動を実施（地域協議会と連携し年2回あいさつ運動強調週間を行う）するとともに、保護者や地域住民の協力を得ながら、校内外でのあいさつ指導の徹底を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 85.4%↓(88.7%)、保護者 68.1%↑(67.0%)、地域住民 77.1%↑(69.4%) であった。 ・児童の肯定的回答が 80%を超えているが、保護者や地域住民との割合に開きがある。 【次年度の方針】
	活				

80%以上	② 下級生の手本となるように、上 学年児童のあいさつ指導を強化す る（登校班長、縦割り班班長の指 導等）とともに、小中一貫教育地 域学校園の中学生徒と合同のあい さつの日を次年度も実施する。	B	・あいさつ運動が児童会を中心に行われ ていたが、各学年に割り振って取り組 むような形式になっても良いのでは。 ・教職員や保護者、地域住民など、大人 が率先してあいさつを行い、児童の良 き手本となるようにする。
A10 児童は正しい言葉 づかいをしている。 【数値指標】 児童アンケート「児 童は時と場に応じた言 葉づかいをしている」 ⇒ 児童の肯定的回答 80%以上	① 「生活と学習・10の約束」の常 時指導の結果を、教師も児童も常 に振り返るようにする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 78.5% ↓ (82.3%)， 保護者 64.8% ↑ (57.3%)，地域住民 55.8% ↓ (62.8%)であった。 ・保護者と地域住民の肯定割合が低い のに対し、教職員の割合が 82.3%と認識 の違いが見られた。 【次年度の方針】 ・教職員や保護者など大人が自ら率先し て正しい言葉づかいを実践していく。 ・地域の方への言葉づかいも含め、引き 続き指導していく。 ・地域の方にも正しい言葉遣いができる よう、折に触れご指導いただきたい。
	② 生活目標により自覚を促し、週 の終わりには振り返りをし、生活 に生かすようにする。	B	
	③ 学校生活の様々な場面におい て、気持ちのよい言葉づかいにつ いて継続指導をしていく。	B	
B2 児童は楽しい学校 生活を送っている。 【数値指標】 児童アンケート「自 分は楽しい学校生活を送 っている」 ⇒ 児童の肯定的回答 80%以上	① いじめの早期発見・早期対応の ため、4・6・11・2月に「学校 を楽しくするために」アンケート による実態調査を実施する。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 88.6% ↓ (91.0%)， 保護者 95.1% ↑ (93.9%)，地域住民 96.8% ↑ (91.1%)であった。 ・児童の肯定的回答の割合が低下してい るのに対し、教職員の回答は 100%と 認識の違いが見られた。 【次年度の方針】 ・いじめ問題のアンケートは「学校を楽 しくするために」から「いじめゼロア ンケート」にする。 ・いじめゼロ強調月間が5月と10月， 教育相談が6月と12月，いじめゼロ アンケートを11月と2月というよう に、月ごとに重複しないように実施し ていく。 ・いじめ強化月間中のおはなし会ぼけっ とで人権に関する本を取り上げて読 み聞かせしてもらったのはよかった。 次年度も継続して行ってもらおう。 ・「おはなしタイム」期間中の行事を少 なくし、昼休みに優先しておはなしタ イムが実施できるようにしてほしい。 ・高学年の委員会活動や音楽集会の練 習等も極力配慮してほしい。 ・Q-Uの結果を教育相談に活用できる ように、6月の教育相談の開始時期を 遅らせ、6月下旬からの実施にすると よい。 ・学年会等で学級の状況を伝え合い、配 慮を要する児童への対応や学級経営 の仕方について随時情報交換を行う。
	② 「うつのみや いじめ0宣言」 を活用し、いじめ0運動を推進し、 いじめ根絶の気運を醸成する。(5 月、10月いじめゼロ強調月間)	B	
	③ おはなし会「ぼけっと」の協力 を得て、いじめ強化月間中に人権 に関する本を取り上げていただ き、読み聞かせをしてもらうなど、 連携を図った取組を工夫してい く。	B	
	④ 教育相談月間「おはなしタイム」 (年2回)を充実させるとともに、 必要に応じて個別に実施すること を通して、児童一人一人が楽しく 学校生活を送ることができるよう にする。	A	
	⑤ 学級満足度調査(Q-Uテスト) の結果を生かし、児童にとって楽 しく安心して生活できる学級づく りに努める。	A	
	⑥ 一人一人の特性に応じた教育支 援を行い、児童が生き生きと学習 や生活ができるように努める。	B	

健康・体力		⑦ 校内支援委員会やプロジェクトチームによる指導の協力体制を強化し、特別支援教育の推進に努める。	B	
		⑧ 学年会等で学級の状況を伝え合い、配慮を要する児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を行う。	B	
	A11 児童は進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① 「元気っ子健康体力チェック」を全学年実施し、その結果をふまえ、児童の実態に応じた指導を徹底する。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は84.3%↓(87.5%)で3.2ポイント減少し、保護者の肯定的回答率は84.6%↓(95.8%)と10.2ポイント減少しているが、80%以上は上回っている。 【次年度の方針】 「元気っ子健康体力チェック」で、特に市全体・全国と比較し、落ちている点については、項目を絞り、学校全体で、体育の授業の準備運動等に取り入れ、ミニマム達成に努める。また、児童が意欲的に取り組めるよう指導の工夫を図る。運動プログラムを活用し、体育部でサーキットトレーニングを作成する。 - 運動委員会を活用して、校庭の遊具を活用した遊びを啓発したり、なかよし班や学級対抗のイベントを企画させたりして、児童が進んで運動に取り組むきっかけを増やす。
		② 「うつのみや元気っ子プロジェクト」のミニマム達成のために、運動プログラム集を活用し、最低限身に付けさせたい体力や技能の習得に努めたり、準備運動にサーキットトレーニングを取り入れたりして、教科体育の充実を図る。また、運動の日常化を図るため、児童が意欲的に取り組めるような学習カードを充実させる。	B	
		③ 児童が意欲的に運動に取り組めるよう、学級対抗によるイベント（ドッジボール大会や大なわ大会等）などを企画し、運動の日常化を図るきっかけを作っていく。	B	
	A12 児童は栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、好き嫌いなく給食を食べている」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① 「食育パンフレット」や食育ビデオを活用した給食指導の充実を図り、望ましい食習慣と食事マナーを身に付けるようにする。	B	
		② 学級活動の「食に関する指導」の授業を行う際に、学校栄養職員と協力し、食事の重要性や望ましい栄養の取り方などについての理解を深められるよう指導を工夫する。	B	【達成状況】 - 肯定的回答率は、地域住民を除き他は80%を下回っている。特に保護者の評価が厳しく、63.8%↓(81.3%)で昨年より17.5ポイント減少している。 - アンケートの質問事項がH24から変わり、給食だけでなく家庭での食事も含まれていることで、前年度より大きく下回ったのではなか。 【次年度の方針】 - 家庭での食生活を含め、「食育だより」を通して食に関する指導を行う。 - 定期的に「食事のマナー」のビデオを流す。 - アンケートをとり、児童の食生活の実態を把握し、適切な指導をする。 「お弁当の日」は、地域学校園で同日に実施することで、食事について家庭で考える機会とし、児童自身の体の成長や食への関心を高め、感謝の心を育てる。
		③ 食に関する指導では、箸の持ち方ができない児童が多いため、重点化し、指導に取り組んでいく。	B	
		④ 食事のしかたのきまりをつくり、担任がそれに沿って共通の指導をしていけるようにする。また、給食時計を活用し、食事時間の確保に努める。	B	

		⑤ 「食育だより」等を通して、より一層の情報発信に努め、家庭における食育の推進を図る。	B	
		⑥ 引き続き「お弁当の日」を設定し、食事について親子で考える機会とし、児童自身の体の成長や食への関心を高め、感謝の心を育てる。	B	
	B3 児童は、自分の健康の保持や、安全を考えて行動している。 【数値指標】 児童アンケート「児童は自分の健康保持や安全を考えて行動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 汗の始末、手洗い・うがい（咳エチケットやマスクの着用等）を通して、かぜやインフルエンザ対策の指導をより一層徹底し、よりよい生活習慣を身に付けさせるとともに、健康な児童の育成に努める。また、給食後の歯磨き指導を徹底し、むし歯の予防に努める。	B	【達成状況】 - 肯定的回答率では、保護者 78.3% ↑ (77.2%)と児童 91.5% ↑ (88.2%)は昨年と比較すると上っているが、教職員 88.2% ↓ (94.1%)と地域住民 82.7% ↓ (90.0%)は下がっている。 - 夏の水分補給のための水筒の持参や、うがいのための水筒持参が健康の意識向上につながった。 - スタンダードダイアリーは、十分に活用されている。 【次年度の方針】 - 地域学校園で、歯科治療率を上げることを一つの目標としているので、歯みがき指導の徹底と、治療の呼びかけに努める。 - 季節に応じた保健指導を行う。 - 安全教育では、今まで同様きめ細かな指導を行う。 - 安全教育を充実させるとともに、集団登下校時における安全確保のため、保護者・地域ボランティアとの連携を推進する。
		② 靴下や下着を着用したり、冬期に長袖の体育着を着用したりすることを、文書で積極的に家庭に依頼し、児童・保護者の意識の高揚に努める	B	
		③ スタンダードダイアリーを活用することにより、家庭との連絡を密にし、指導に生かせるようにする。	B	
		④ 集団登下校の実施、自転車乗車時のヘルメット着用、交通安全教室、防犯教室、不審者侵入想定避難訓練、緊急時を想定した児童引渡し訓練、「安全安心マップ」の作成などを通して、自己保全能力（自分の命は自分で守る）の育成を図る。なお、下校指導には全職員が当たるとともに、地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。	B	
	学 習	A13 児童は進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業中に進んで話し合うなど積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答		【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は、86.0% ↑ (82.4%)で、数値指標 80%以上を上回っている。保護者 75.9% ↑ (75.7%)地域住民 96.0% ↑ (85.7%)で、昨年度より上回っている。教職員も 91.1% ↑ (79.4%)と大きく上回り、授業力向上を意識した取組の工夫がなされていることがうかがえる。 【次年度の方針】 - 朝の学習・長期休業で漢字・計算練習
		① 授業で学習した漢字を正しく読んだり書いたり、整数・小数・分数の基本的計算を正しく計算するとともに、朝の学習の時間や長期休業を利用して漢字・計算力の向上を図る。また、習熟のための時数を確保し、指導の充実を図る。	B	
		② 朝の学習・長期休業で漢字・計算練習を充実させ、向上を図る。	B	

	80%以上	③ ノートの記入を工夫し、整理された分かりやすい使い方を指導する。	B	を充実させ、向上を図る。 ・算数や国語の少人数指導・習熟度別学習の指導法を工夫し、個に応じたよりきめ細やかな指導に努める。少人数指導担当と該当学年担任との打ち合わせを密に行い、互いに連携しながらより効果的な指導が行えるようにする。
		④ 考える授業・話し合う授業を意図的に組み入れ、児童同士が学び合ふことができるようにする。	B	・ノートの記入を工夫し、整理された分かりやすい使い方を指導する。 ・「考える授業・話し合う授業」の取組の効果がみられる。来年度も継続して、意図的の組み入れ、児童同士が学びあうことができる授業を組み立てていく。
A14	児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① 教室に掲示してある「学習の約束」を時々読み合わせるなど確認したり、自己評価を行ったりするなど意識付けの継続を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 83.8%↓(87.4%)と昨年度より下回ったものの、数値指標 80%以上を上回っている。保護者 81.3%↑(78.6%)地域住民 86.2%↑(83.3%)と上回り、教職員も97.0%↑(79.4%)と、昨年度より高い値を示した。 ・児童一人一人が学習の約束などを理解し、自分自身の学習態度を意識するようになったことがうかがわれる。
		② 授業開始時刻の遵守、学習用具の準備や話を聞く態度、発表の仕方など基本的な学習態度や学習技能の習得を図る。	B	【次年度の方針】 ・各学級において、「学習の約束」を徹底する。
B4	読書を好み、進んで本を読んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は読書を好み、進んで本を読んでいる」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① 学年ごとに音読カードや読書の記録カードを活用し、読書を奨励する。読書の量だけでなく質的な向上をめざす。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 76.8%↑(74.7%)で、昨年度より数値は上回ったものの、まだ数値指標 80%以上には達していない。保護者 66.5%(66.2%)とかなり低い数値を示した。教職員は94.1%(94.1%)と高い数値を示しているが児童・保護者との差が大きい。
		② 児童の興味・関心を喚起する本や学習に役立つ本の購入に心掛けるとともに、図書室の環境構成や運営(図書だよりの内容の充実等)を工夫し、貸し出し冊数の向上を図る。	B	・毎週、授業時間内に学級ごとに図書室を利用し本の貸し出しの指導をしているが自宅にはもって帰らず、学級での読書活動に利用する学級もあるため、学校と家庭での取組の差があると思われる。また、読書量の個人差も大きい。
		③ ボランティア(「おはなし会ぼけっと」や「雀宮おはなし会」など)や委員会児童による読み聞かせを推進し、読書への関心・意欲を高める。	B	【次年度の方針】 ・児童の発達段階にあった質的な向上をめざしていく。
		④ 昨年度に引き続き、校長、副校長をはじめ担任を持たない教員も朝の読書の時間に読み聞かせを行い、読書への関心・意欲を高める	B	・読書週間に読書集会や読書郵便・読書ビンゴなどを行ったが、さらに工夫した取組を考え、実施していく。
		⑤ 地域協議会学習支援ボランティア(図書ボランティア)と連携し、図書室の環境整備を行う。	B	・「雀宮おはなし会」の読み聞かせ後、紹介した本を少しの間置いてもらい、児童が読む機会を作る。 ・ブックトークを授業にさらに取り入れていく。

		⑥ 家庭における読書の習慣化を図るとともに、読書を通したコミュニケーションの機会として長期休業中などに親子読書を勧める。	B	- 親子読書を引き続き呼びかけていき、感想の一部を図書便り(号外)等で紹介する。 - 毎週木・金の朝の学習の時間を全校読書の時間とし、「おはなし会ぽけっと」や黙読の時間とし、多くの本に触れたり、自分の力で読み進める力をつけたりにしていきけるよう働きかけをする。 - 保護者の読書への理解と啓発、協力を得るための呼びかけをするなど、読書環境を整えるよう働きかける。
本校の特色・課題等	B5 授業や日常生活の多くの場において、自他の思いや考えを伝え合う活動を充実させる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、進んで挙手し、大きな声で発表するなど授業に対して積極的に取り組んでいる。 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 各他教科等においても、豊かな感性が育つ場を設定し、感動や思いなどを多様な手段で表現できるように指導を工夫する。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 94.9% (95.4%) と高い値を示している。保護者は 77.3% ↑ (69.9%) と昨年度より向上しているものの、児童との差が大きい。教職員は、97.0% (97.0%) と高い値を示している。教師が、自分の考えをきちんと表現できるよう指導法を工夫していることが、保護者にも理解していただけるようにしていきたい。 【次年度の方針】 - 字数を決める、めあてを決めるなど、日記や「書く」ワークシートを工夫する。 - 会話科や道徳だけにとどまらず、各教科等においても、豊かな感性が育つ場を設定し多様な手段で表現できるように指導を工夫した授業を充実させる。 「発表のしかた」を活用し、自分の考えを「発表する」「伝える」力の育成に取り組む。 - 学校の取組として自分の考えをきちんと表現できるよう指導法を工夫していることが、保護者にも理解していただけるよう、機会あるごとに発信していく。
		② 児童が互いに学び合うことができるようにするため、考える授業・話し合う授業を展開する。	B	
		③ 「発表のしかた」を活用し、自分の考えを「発表する」「伝える」力の育成に取り組む。	B	
		④ 会話することの楽しさを体験させ、伝えたいことを相手に分かりやすく話したり、進んで相手の話を聞いたりするなど、自分の気持ちや考えを伝え合う力を育成する。	B	
	B6 道徳教育や授業、体験学習や交流活動などで、心の教育を推進し豊かな心を育てる。 【数値指標】 児童アンケート「学校(高学年：道徳や授業、体験活動など)では、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる。 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	⑤ 授業参観後の懇談会等で、表現力育成のために工夫していることや個に応じた指導について説明をするなどして、保護者の理解を得るように努める。	B	
		① 道徳の時間では、児童の心を揺さぶるような感動教材や身近な資料、心のノートを有効に活用し、心に響く授業の展開に努める。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答 92.8% ↓ (94.4%)、保護者 84.1% ↑ (77.0%)、地域住民 85.7% ↓ (90.0%) であった。 - 道徳の時間や体験的学習、交流活動などを通して、自主性・創造性・協調性・実践力等を伸ばしながら、心の教育を推進した。 【次年度の方針】 - 道徳教材の保管については、実践したものを随時ストックしていき、より使いやすくなるようにしていく。 - 異学年交流や幼保小連携活動は、活動の意義を踏まえて連携を密にし、内容
		② 読み物資料以外にも、インターネット教材など各種教材を開発し、心に響く授業の展開をする。	B	
		③ 各学年で蓄積してきた教材を整理し保管する場所や方法を工夫することにより、より使いやすくしていく。	B	
		④ 全校一斉の道徳の授業参観を実施する。	B	

上	⑤ 縦割り班活動や異学年交流などのふれあい活動やなかよしチャレンジ、一日先生などを通して、幼稚園や保育所、地域との交流を図りながら、児童の自主性・創造性・協調性・実践力が育つよう指導・支援を行う。	B	を精選しながら活動計画を検討する。 ・6年生の幼稚園・保育園との交流は、「中学校訪問」が始まったのでなくしていく。 ・なかよしチャレンジは、6年生が種目担当、5年生が1～4年生の引率の仕事につき、リーダーシップと責任感を育成する。 ・縦割り班活動等の異学年交流において、高学年児童が自主的に活動する場面を意図的に設け、リーダー性の育成を図る。 ・クラブ活動による異学年交流では、児童の希望を通すことも大事だが、学年の偏りがないようにし、望ましい異学年交流ができるよう配慮していく。
	⑥ なかよしチャレンジは児童主体として高学年児童に活躍の場をもたせる。	B	
	⑦ なかよし班では楽しむ活動だけでなく縦割り清掃を行うなど、充実した異学年交流活動ができるようにする。また、縦割り班活動を増やしていく。	B	

〔総合的な評価〕

- 児童の肯定的回答80%を数値目標とした項目のすべてが達成率を超え、成果を上げることができた。
 特に、90%を上回る項目は、「自分は、今の学校が好きです。」(91.0%)、「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる。」(全項目中最高値97.1%)、「先生方の授業は、分かりやすく一人一人に丁寧に教えてくれる」(94.7%)、「私の学校生活や様々な活動は充実している。」(91.2%)、「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」(90.1%)、「自分は健康や安全を考えて行動している。」(91.5%)、「先生は、自分の考えをきちんと話したり書いたりすることができるように教えてくれる。」(94.9%)、「学校（道徳、授業、体験活動など）では、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる」(92.8%)等であることから、児童は、教職員・保護者・地域の方々に見守られ、明るく生き生きと学校生活を送っていることがうかがえる。
- 「あいさつ」「言葉遣い・返事」については、昨年度よりも、4%～8%の肯定的回答の上昇がみられるが、保護者・教職員において肯定的回答率の低い項目となった。また、児童との認識のズレが大きい項目でもある。課題に対しては、様々な活動を行い、成果をあげ児童の姿に変容が見られたが、さらに、意識を高め、実践化を図る取組を地域学区園と連携し継続していく必要である。
- 保護者の肯定的回答が90%を超えた項目は、「学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」(91.5%)、「学校の日課、授業、行事、などは、適切に実施されている。」(93.6%)、「学校は、学校だよりや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している。」(92.9%)、「児童は、楽しい学校生活を送っている。」(95.1%)であり、学校の取組に対して理解を示していることがうかがえる。
- 地域住民の回答状況は、「学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」(94.1%)、「学校の日課、授業、行事、などは、適切に実施されている。」(100%)、「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」(94.1%)等をはじめとして、12項目において90%超の高い肯定的回答を示した。引き続き学校への理解を深めていただくために、授業参観における授業の見どころ・道徳の授業全学級一斉公開時の授業パンフレットや学校だより・各種たよりの工夫、ホームページの充実等への取組を継続していく必要がある。あいさつについては、保護者・教職員同様肯定的回答率の低い項目となり、今後、地域と連携を図った取組が必要である。

6 学校関係者評価

- ・ 全体的に見ると、各項目の数値目標がほぼ達成されている。児童は、先生方の熱心な指導のもと、元気に学校生活を送っている。
- 「あいさつ」「言葉遣い・返事」については、子どもたちの声が小さいし、言葉がはっきりしない。大きな声を出す経験や習慣が乏しいのではないかと。訓練をしてほしい。あいさつのもつパワーは大きい。学校だけでなく、家庭でのしつけや地域のかかわりも大切ではないかと。「あいさつ」は、まず大人から子どもたちにしていくことが大切である。子どもたちは、あいさつされれば返してくれる。自然に自分からあいさつできるようになるまで、繰り返し続けていくことで身に付くのではないかと。地域でも、各種行事等を通して、子どもたちが人と人とのコミュニケーションを図る上で大切なあいさつ等の基本的な生活習慣を身に付けられるよう積極的にかかわってほしい。
- また、小中一貫教育を進める上でも、中学校と連携したあいさつ運動を行ってみてはどうか。
- ・ 家庭学習については、宿題の内容と量が学級・学年によって様々である。学年で共通理解・同一歩調を図ってほしい。
- ・ 登下校の安全確保については、安全安心パトロール隊を中心に、地域で熱心に取り組んでいる。保護者の方々の参加がさらに増えると安心である。また、道路の歩行のしかた等、交通ルールの指導をさらにお願いしたい。看板・文書・声かけを工夫していきたい。
- ・ 授業参観やオープンスクールに参加した。先生方は、子どもたちへの指導を熱心に行っていた。「分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導」「自分の考えをきちんと表現できるような指導」等の項目は、実際に学校の中に入って授業を参観し、教職員や児童の様子を見なければ評価できない。地域住民が「判断できない」と回答する率が高いので、学校の取組を積極的に伝えていく工夫が必要ではないかと。学校からの案内をもとに、学校へ出向く機会を増やしたいと思う。
- ・ P T Aと地域協議会相互の役割を意識しながら、共に力を合わせて子どもたち・学校そして地域のために活動していきたい。

7 まとめと次年度へ向けて【学校関係者評価を受けて】

○:地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組

- 今年度の成果と課題を受けた「次年度の方針」に基づき、児童がさらに充実した学校生活が送れるようにするため、「主な取組」を具体的に設定し、「評価指標」達成のための活動を積極的に推進する。「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育推進計画」「宇都宮市小中学校体力向上計画」等の趣旨を踏まえ、見直しを図る。
- ・ 「分かる授業」の具体的方策を工夫し実践することで、授業力を高め、学力向上への取組をさらに推進する。指導法の工夫、学習習慣の確立、家庭学習の充実等を通して、基礎・基本の確実な定着を図る。また、一人一授業を継続し、教職員同士の学び合いを通して、授業力を向上させる。
- ・ 「読書活動の推進」では、学校・家庭において読書の日常化を広めるために、読書指導の工夫、学校図書館の活用の見直し、親子読書の勧め等を積極的に展開する。
- ・ 「心の教育」を推進し豊かな心を育てるため、今後も、全学級一斉の道徳の授業公開、ふれあい活動、なかよしチャレンジ、幼稚園・保育所との交流活動等、学校・家庭・地域が連携した取組をより一層推進する。なお、次年度の宇小教研道徳部会の授業会場校となることを好機ととらえ、「豊かな心で共に生きる子どもを育む道徳教育」を研究主題とした学校課題研修を推進する。
- ・ 児童の体力・健康や食生活の向上については、「うつのみや元気っ子プロジェクト」に基づき、教科体育の充実、食育の推進を図る。児童主体の集会を計画・実践するなどして、遊びの日常化を図る。
- 「あいさつ」等については、今後も教職員が率先してあいさつを心がけ、速やかで親切的な対応に努め、児童・保護者・地域住民と積極的にコミュニケーションを図ることにより、連携・協力態勢を強化し、学校を核とした家庭・地域の教育環境の充実を図る。
- ・ 児童一人一人を共感的に理解することを基盤に、個々のよさを認めながら自己存在感をもたせるような積極的な児童指導を推進するとともに、どんな問題も全校体制（組織的対応）で当ることを常に確認しながら進めることを継続する。
- ・ 学校だより・各種たより・ホームページのより一層の充実を図り、学校の情報発信・提供に努め、さらに信頼される学校づくりを推進する。

